

## 令和5年度 第2回香美市まちづくり委員会 会議録要旨

開催日時 令和5年10月31日 午後6時30分から午後8時00分

開催場所 香美市役所 3階会議室

出席者 まちづくり委員 16名

定住推進課 2名 事務局(企画財政課)4名

欠席者 : 4名

### 1. 開会

### 2. グループワーク

「提案型市民主役事業」「自治会の活性化」の2班に分かれ、それぞれのテーマでグループワークを行った。自身の班以外のテーマに意見がある方は、事前提出や全体発表後に提案していただいた。

#### (1)提案型市民主役事業

##### ①要綱 要領について

##### ○質問

・応募者が少ない等の理由で予算が余った場合、翌年度に回せるのか。

→ある程度の応募が予想されており、現時点では翌年度への繰り越しは考えていない。

・開催場所の規模について条件はあるか。

→場所の広さに対する要件はない。

・既存のイベントについても申請できるか。

→チャレンジコース(小さいコース)については、可能である。ただし、新規性の加点はない。

・どのように広報するか。

→香美市公式ホームページ、広報香美で周知する。来年度の募集について、パブリックコメントを受け付けた後、3月広報に掲載する予定

・事業期間の制限はあるのか。

→特に制限はない。(1日限りでも、複数日や期間指定等、どのような形態でも可能)

・営利企業でも申請できるか。

→にぎわいコース(大きいコース)は可能であるが、事業収入の一部を収益納付してもらう。

※要綱・要領に対する訂正意見はなし。

## ②募集テーマについて

### ○提案

- ・令和7年度前期 朝の連続テレビ小説「あんぱん」に関係したテーマ
- ・「ガチャガチャ」巡りの事業(香美市公式キャラクターのリュウくんのバッチを入れる等)
- ・大学生の就職活動に絡めて、企業とコラボレーションした事業
- ・(一見したところ大人を対象にしているように見えるため)中高生でも申請しやすいようなテーマ
- ・今年度のテーマの「音楽」のように「手段」を指定したものと、「〇〇を解決するための事業(例.人口減少を克服するための事業、というような「目的」を指定したものと、両方のテーマでの募集
- ・関係人口を増やすため、物部や林業に着目したテーマ(〇〇山に登ろう等)
- ・「香美市で学ぼう」「香美市で働こう」「香美市で食べよう」「香美市で遊ぼう」等の、キャッチコピーでの募集

## ③その他

### ○質問

- ・そもそも、なぜ募集テーマを決めるのか。
- ある一定範囲を絞らないと、審査の面から難しいためである。

なお、「地域活性化総合補助金」では、(テーマを限定せず)地域活動事業全般に対して補助している。

- ・集客や効果等の実績について公表してはどうか。
- 香美市公式ホームページ等に掲載する。

### ○意見

- ・公金を使う以上、次年度以降の継続を交付条件に入れるべきである。
- ・「申請の手引き」を作成してはどうか。

## (2) 自治会の活性化

### ① 課題

#### ・ 人口(住民)減少と高齢化

若い人は一度出て行くと戻ってこないことが多い。

二世帯で加入していても、活動のほとんどが高齢の親世代によって担われている。(世代交代が進まない。)

香北・物部地区は人口の減少が著しい。

#### ・ 加入率減少、後継者不足

転入者や若者に未加入者が多い。

祭りの総代や区長等の役割を引き受ける人が不足し、特定の人が複数の役職を兼務し、何年にもわたり担当している。

物部町は加入率は高いが、活性化は難しい。

#### ・ 自治会行事や活動の減少

コロナ禍で交流機会が減少し、収まってきても戻らない。

#### ・ 自治会加入の必要性が感じられない。

自主防災組織と自治会が別々の組織であるため、自治会に加入しなくても「安心・安全」面での必要性を感じにくい。

「自治会には入らないが協力はする」という人をどう考えるか。

### ② 原因と対策

#### ○ 原因

・ 活性化にはそれを担う若者が欠かせないが、若者の加入や参加が少ない。

・ 価値観の多様化

・ 自治会の必要性が伝えられていない。

・ 役割を押し付けられるイメージがある。

#### ○ 対策

・ 加入者の少ない自治会の合併

・ 自治会パンフレットのデザイン変更(活動内容と加入利点が伝わりやすいものにする。)

・ (人口が少ないと始まらないので) 定住施策・空き家対策の推進、働き先の確保

・ 加入者と未加入者の差別化(加入利点の明確化)

・ 活性化は難しいので、維持させていくことを最優先にする。

・ 香美市全地区に対して一斉に対策を実施するのは難しいため、香北や物部等の中山間地域に重点を置く。

・ 高知工科大学等の学生に、地域に入って活動してもらおう。

- ・「転入者」と「未加入の住民」への対策は、分けて考える必要がある。
- ・自治会活動の見える化と必要性を知る機会の拡充
- ・市民班窓口で、転入セット(広報やゴミの出し方等)を提供する際に、ゴミの出し方や自治会加入について説明する。
- ・自治会活動の中で「安心・安全」の側面が未加入者に伝わりやすいと考えられるため、自治会と自主防災組織を一緒にできないだろうか。
- ・価値観の多様化に合わせ、素直に加入してもらえそうな柔軟性が必要。
- ・そもそも本当に自治会が必要か、もう一度考え直す。

#### ※他班からのその他の事前意見

- ・状況を把握するため、各自治会長にアンケート調査を実施する。
- ・コロナ禍による影響を分析する。
- ・加入率のデータはもう少し詳細なものが必要
- ・必要性を感じてもらう手段として、ゴミ、防災をキーワードにした交流をする。

#### 3. その他

- ・提案型市民役事業公開プレゼンテーション審査員立候補のアンケート提出をお願いした。
- ・次回まちづくり委員会は、協働推進計画の進捗管理等を行う。計画の進捗管理は、市役所内に今年度の状況調査を行った後になるため、今回は早くて2月上旬頃になる。